

日本音楽知覚認知学会平成 27 年度第 2 回理事会議事録

日時：平成 27 年（2015 年） 12 月 5 日（土曜日） 10：00～12：20

開催場所：ヤマハ音楽振興会本部

参加者（敬称略）

理事：山崎，西村，荒川，苧阪，桑野，亀川，三雲，川上，安井，中田，羽藤，佐々木，星野，森下，菅，三浦

オブザーバー：田部井，小幡，松永，

報告事項：

1. 新体制の発足について（山崎晃男副会長，会長代行）
新体制について，それぞれの旧体制および新体制についての報告がなされた。また，総務担当を新たに設置することが報告された。
2. 新理事，新幹事の紹介（山崎晃男副会長，会長代行）
新理事，新幹事について滞りなく紹介された。
3. 日本音楽知覚認知学会 創立 30 周年記念出版（星野悦子常任理事）
記念出版についての趣旨，構成案，目次，各章担当の編集委員（代表）について報告がなされた。
4. 第 6 回 APSCOM 大会（荒川恵子常任理事）
APSCOM の会場準備の状況について，京都女子大学にて会場予約の状況が報告された。また，会議テーマについて報告された。
5. 「音楽知覚認知研究」発行について（星野悦子編集委員長）
当該雑誌の発行予定について現状が報告された。また，研究発表からの投稿勧誘について報告された。
6. 国際活動支援基金の現状（吉野巖常任理事，総務担当→山崎晃男副会長が代理）
現在の残額と担当者（吉野先生）について報告された。
7. 演奏科学国際シンポジウム（ISPS）について（三浦雅展副会長）
実施状況について滞りなく報告された。
8. その他
特になし

審議事項：

1. （審議）平成 27 年度学会賞受賞者について（荒川恵子常任理事，学会賞担当）
・春季研究発表会研究選奨
前回の研究発表会で発表された正田悠（同志社大）さんが選出されたことが報告さ

れ、承認された。

・論文賞

10名からの回答があったが、半数の支持を得た唯一の候補論文に対しては最高スコアの5がなかったため、今回は授賞対象としては選出せず、該当者無しとなることが承認された。

2. 秋季研究発表会研究選奨選定委員の委嘱（荒川恵子常任理事，学会賞担当）

今回4人の審査員が選出され、委嘱済みであることが承認された。また、理事会メンバーから推薦できるので、今回の発表で該当者がいれば推薦するように依頼され、承認された。

3. 事務局銀行口座に関わる会則の改訂について（川上央事務局長）

事務局移転に伴い、銀行口座の設置がなされたものの、事務局の所在地情報に関して設置処理に難儀した。今回は、会則に所在地を示す付則を追加して対応した。ただし、「事務局決定→口座設置→会則変更」と1年間ルーチンになるので、今後の対応が必要となる。1つの案として、理事会承認の付則を設置し、総会ではなく理事会で承認可能な枠を設ける方向性も含め、今後会長と事務局長で議論を続けることが承認された。

4. 学会誌「投稿規定」の改訂について（星野悦子編集委員長）

現在の投稿はほぼ電子データでなされているものの、現在の投稿規定では紙ベースの文言があり現実にそぐわない。よって投稿規定の改訂が提案された。具体的には投稿原稿や最終原稿の提出をPDFおよびWordのみとすることが提案され、承認された。また、学会誌の投稿規定の最後にある付記に現編集委員長の所属と住所を掲載しているが、今後も継続する旨が承認された。

5. 学会誌の原著論文の学会サイト掲載について（星野悦子編集委員長）

平成25年より学会誌原著論文の第1-6巻までの全ての論文（1本の辞退を除く20件）の電子化が完了した。現在、ウェブ担当にアップロードを依頼中である。なお、第7-13巻までは紙媒体のみ保管している。14巻以降は印刷屋側にpdfファイルがある。7-13巻の方針については、テキスト化する必要性について議論した。本誌の今後の方針を決めたうえで、全文テキスト化の必要性を見極める必要がある。アクセス権については、本会会員に限るのか、会員外にオープンにするのかについても議論した。その結果、「方針（公開の範囲、J-STAGEを使うのか）」「PDF化の作業負担」「著作権チェックの体制」の3点について今後検討を続けることが承認された。

6. 次回春季研究発表会について（谷口高士常任理事，研究発表会担当→三浦雅展副会長が代理）

次回の開催場所について九州大学大橋キャンパスで開催されることが承認された。日程については確認が必要であった。

7. 若手活動振興について（三浦雅展副会長，若手活動振興担当）

ポスターセッションの実施について、会場担当と相談の上、実施可能であれば次の発

表会からテスト的に実施することが承認された。なお、ポスター賞については、会則の設定が必要であるため、継続して検討する旨が承認された。

8. 国際活動支援基金の今後の有効活用について（吉野巖常任理事，総務担当→山崎晃男副会長が代理）

前回の理事会で認められた内容に従い、内規案が議論された。その結果、4-2「.. 本学会の主催する」を「... 本学会の主催または共催する」に変更された。また、4-2「貸し出し分」を「支出分」に変更するなどの文言上の修正が行われた。必要な修正については、星野常任理事と小川常任理事によって今後修正される旨が承認された。その後、理事メール（RIJI-jsmpc:00152）にて内規の修正案が送信され、異議なく了承された。また、APSCOM に最初に必要な支出として、60 万円を支出する旨が議論され、承認された。また、ICP2016 への寄付を国際活動支援基金より支出する旨が承認された。また、本会（音楽知覚認知学会）としての広告を出す旨が検討されたが、次回理事会での継続審議となった。

9. その他

特になし

付記

<理事懇談会>

日時：平成 27 年（2015 年）12 月 6 日（日曜日） 12：25～12：40

開催場所：ヤマハ音楽振興会本部

参加者（敬称略）：中島，山崎，西村，小川，荒川，三雲，安井，羽藤，田部井，小幡，佐藤，星野，三浦

1. 新会長の挨拶（中島祥好会長）

新体制について改めて確認がなされた。

2. 今後の課題についての確認（中島祥好会長）

・国際活動支援基金についての内規について小川理事と中島会長の間で検討することが確認された（その後の理事メールにおいて、修正された内規の文言について了承され、発効されることとなった）。

・論文 PDF 化を進めるべく、一般会計だけでなく、国際基金から支出することも視野に入れた検討が進められることが報告された。また公開範囲やポリシーについては編集委員会で素案を検討することが確認された。

- ・次回については5月14, 15日に九州大学大橋キャンパスで開催されることが確認された.
- ・次回のポスター発表は発表カテゴリーが異なるため, 研究選奨の対象とはしないことが確認された.

—以上—